



令和4年3月18日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
総務広報課長

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の感染源特定について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

令和4年2月24日付けで、宮崎県福祉保健部健康増進課感染症対策室から、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)を発症した宮崎市内の80代女性が、亡くなった地域猫の体液（血液を含む）に素手で触れてしまったことによりSFTSウイルスに感染した可能性が高いことが公表されました。しかしながら、この猫がSFTSウイルスに感染していたのかどうかは確認されていなかったことから、宮崎大学の医学部附属病院と産業動物防疫リサーチセンターとの連携による追跡調査を実施したところ、この猫がSFTSウイルスに感染していたことを確認したところであります。

つきましては、下記のとおり、メディア関係者のみを対象にしたオンライン形式での説明会を実施することとしましたので、取材について検討していただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

日 時：令和4年3月23日（水） 13:30～14:00

形 式：Zoomによるオンライン形式での説明

その他：参加いただける場合は企画総務部総務広報課にメールにて申し込み下さい。

農学部北棟2階小会議室が発信拠点となります。

オンライン形式での会見後、対面形式での説明も可能ですが、用務の都合上14:30までとさせていただきます。

【発信元・申込先】

企画総務部総務広報課（後田・福岡）

TEL：0985-58-7114 e-mail：kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp

【調査・診断に対する問い合わせ先】

医学部附属病院 膠原病感染症内科 診療科長 梅北

産業動物防疫リサーチセンター 副センター長 岡林

TEL：0985-58-7674 e-mail：cadic@of.miyazaki-u.ac.jp

報道機関各位

宮崎市内における「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」発症事例における感染源を特定

ポイント

- 宮崎市内 SFTS 発症事例(令和4年2月24日発表)における感染源が猫であることを特定
- 発症猫に濃厚接触(血液に触れるなど)することで感染するリスク
- 宮崎大学の医学-獣医学連携による SFTS に対する取り組み

【猫が SFTS ウイルスに感染していたことを確認】

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)を発症した宮崎市内の 80 代女性が、亡くなった地域猫の体液(血液を含む)に素手で触れてしまったことにより SFTS ウイルスに感染した可能性が高いことが報道されました(令和4年2月24日宮崎県感染症対策室発表、25日宮崎日日新聞報道)。しかしながら、この猫が SFTS ウイルスに感染していたのかどうかは確認されておりました。今回、宮崎大学の医学部附属病院と産業動物防疫リサーチセンターとの連携による追跡調査により、この猫が SFTS ウイルスに感染していたことを確認しました。

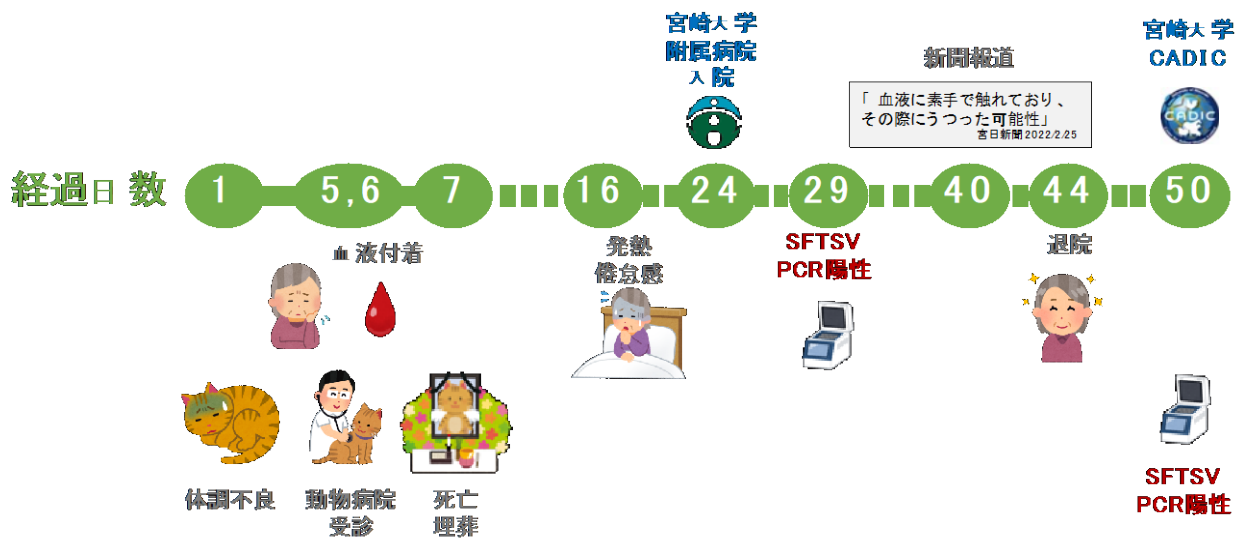
【重症熱性血小板減少症候群とは?】

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、致死率 15-25%のマダニ媒介性人獣共通感染症です。2013年に国内で初めて報告されて以来、西日本を中心に、毎年70人以上の発症が報告されています。特に宮崎県は全国でも患者発生数が多い地域です。ペット(犬、猫)での感染も報告されており、特に猫は重症化しやすいことが知られています。

SFTS ウイルスは主にマダニの吸血により感染します。しかし、マダニを介さない感染動物からヒトへの直接感染事例も複数報告されています(Yamanaka *et al.*, 2020)。これまでの報告から、SFTS ウイルスに感染した犬や猫に咬まれる、もしくは SFTS 発症により衰弱した動物の体液(血液を含む)に触れることで、人に感染する可能性があります。そのため、獣医療関係者、飼い主での感染リスクが高いことも明らかになっています(Kirino *et al.*, 2021, 2022)。しかし、健常な動物からの感染の事例は現在まで報告はありません。情報を正しく把握することで冷静に対応していただければと思います。

【宮崎大学の取り組み】

上記のような動物から人への SFTS ウイルス感染を防ぐには、ペット(犬・猫)の診断が重要です。宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターでは、動物の SFTS ウイルスの PCR 診断を実施しています。県内の小動物臨床獣医師で、SFTS を疑う動物に遭遇した場合は、飼い主に注意喚起するとともに、下記までご相談ください。宮崎大学では SFTS ウイルスによるヒトや動物の健康被害を減少させるべく医学・獣医学が連携して SFTS の病態解明、迅速診断キット開発などの研究開発を進めています。宮崎県の皆様へ貢献することが私たちの使命です。



図：SFTS ウイルスの感染源を特定するまでの時間経過概略図

参考論文

Yamanaka, A., Kirino, Y., Fujimoto, S., Ueda, N., Himeji, D., Miura, M., Sudaryatma, PE., Sato, Y., Tanaka, H., Mekata, H., Okabayashi T. 2020. Direct transmission of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus from domestic cat to veterinary personnel. *Emerg. Infect. Dis.* 26(12): 2994-2998. doi: 10.3201/eid2612.191513.

Kirino, Y., Ishijima, K., Miura, M., Nomachi, T., Mazimpaka, E., Sudaryatma, PE., Yamanaka, A., Maeda, K., Sugimoto, T., Saito, A., Mekata, H., Okabayashi T. 2021. Seroprevalence of severe fever with thrombocytopenia syndrome virus in small-animal veterinarians and nurses in the Japanese prefecture with the highest case load. *Viruses*, 13(2):229. doi: 10.3390/v13020229.

Kirino Y., Yamanaka A., Ishijima V., Tatemoto K., Maeda K., Okabayashi T. 2022. Retrospective study on the possibility of an SFTS outbreak associated with undiagnosed febrile illness in veterinary professionals and a family with sick dogs in 2003. *J. Infect. Chemother.*